

『おかえり、葉の場所で待ってるよ』

これは、2019 読書週間（10/27～11/9）の中で募集され見事入選した作品です。

「日々の時間と環境は、時には私を置いて行ってしまうほど早く過ぎ去ってしまうときもあるけれど、ほっと開いた本の世界は、私の帰りを待ってから進んでくれる…一人暮らしをはじめ、昔以上に本が好きになりました」と作者である水口真優子さんはコメントを寄せています。

水口さんのように本を開いて、ほっとできる大人になるになるまで、子供達は、それぞれの発達段階で、どのように本に親しんでいけば、望ましい読書習慣を身に付けることができるのでしょうか。

10月19日・20日の両日、東京都で広げよう子供の読書応援隊フォーラム「子供の発達段階に応じた読書活動～未来をひらく本とのあい～」が開催されました。今回はその講演会に参加された本県に在住の絵本専門士 牧野 幹 氏にお話を聞くことができました。

講演講師の 神山 潤 氏（東京ベイ・浦安市川医療センター）によれば、「胎児期、おなかの赤ちゃんはお母さんの声を聞いてはいるが、聴いているかは未解明。しかし、お母さんが、おなかの赤ちゃんの今やこれからを想像しながら話しかけをすることは、お母さんの前頭前野の働きを活発にする。そして前頭前野機能は、愛着形成に大切である」と語ったそうです。



そして、生まれた子供への読み聞かせは、「子供の心に届く。（脳科学的に言えば）入眠儀式として有用。また、読み手である親の前頭前野の働きを高めるうえでも大切」なのだそうです。

胎児期に声に出して「読み聞かせ」をしたり、語りかけたりすることは、子供に良い影響を与えることはもちろんですが、親自身の前頭前野の活性化や愛着形成にも役立ち、乳幼児期は子どもと親の双方のために有効であるということになります。

好きな本を開き、ほんのちょっとでもリラックスタイムをもつことで、お母さんと赤ちゃんの読書スイッチが作られるかもしれません。それが乳幼児期の望ましい読書習慣と言えるかもしれませんね。今夜から秋の夜長にゆっくり読み聞かせをしてみませんか。【Y】

〇メルマガで取り上げて欲しい内容やご感想など、下記アドレスにお寄せいただければ嬉



しく思います。(アドレス登録又は配信停止もこちらからどうぞ(^_^))

mailto:kosodatem@pref.iwate.jp

○メルマガのバックナンバーを当センターHPで閲覧することができます。

アドレスはこちら

「まなびネットいわて」(<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/>) > 「発行物・刊行物」

> すこやかメルマガ

これからも、どうぞよろしく申し上げます(^_^)/

【発行】

岩手県立生涯学習推進センター

025-0301 花巻市北湯口2-82-13

TEL 0198-27-4555

URL:<http://www2.pref.iwate.jp/~hp1595/> 「まなびネットいわて」で検索